

平成 27 年度事務事業評価表(公共事業用)

①事務事業名		担当	部課コード	120300	TEL	2998-9377
事業コード	120302	所沢村山線道路築造事業		計画道路整備課		
開始年度		平成 13 年度	→	終了年度	平成 年度	
		グループ		庶務・用地・工務		

②事業の概要	事業の種類	<input type="checkbox"/> 土地利用 <input checked="" type="checkbox"/> 土木建設 <input type="checkbox"/> 建築 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度	
	根拠法令	都市計画法、道路法	
	分野別計画・指針	所沢市まちづくり基本方針(補助幹線道路)	
	関連・類似事業	北野下富線道路築造事業(当課)、松葉道北岩岡線道路築造事業(当課)	
	総合計画の体系	章 街づくり	節 道路
事業開始の背景・目的(どのような経緯で、どのような効果を目指して実施しているのか)	所沢駅西口へのアクセスは県道久米所沢線の1路線しかなく、周辺の道路は慢性的に渋滞していた。都市計画道路所沢村山線を整備することにより、所沢駅周辺道路の交通渋滞の緩和を図るものである。		

③事業の内容	事業の内容・実施方法(最終的にどのような状態を生み出そうとしているのか、そのためにどのような方法・手段を用いるのか)				
	所沢村山線は、所沢駅西口から都市計画道路飯能所沢線を結ぶ延長1,430m、幅員20mの道路で、西口周辺道路の慢性的な交通渋滞の緩和を図る。これまでに、所沢駅西口駅前広場から県道東京所沢線駒形交差点までの延長700mが開通しており、駒形交差点から飯能所沢線まで延長730mの区間について埼玉県と区間を分けて整備するもので、H25に測量を実施して、H26より県では計画道路用地の取得を開始した。これからも都市計画道路の建設を進め所沢駅周辺道路の交通渋滞の緩和を図るとともに、歩道のバリアフリー化を図り、歩行者の安心安全を確保する。				
	事業開始後の環境変化(人口や需要量見込み等の社会経済情勢の変化、自然環境の変化等)とそれに対する対応				
	土地価格の変動。これに合わせて事業期間や事業費など適切に対応している。				
事業費概要(千円)	事業開始時の総事業費予定額	14,124,234	事業の進捗率	平成27年度の事業内容及び平成28年度以降に予定している事業内容の概要	
	事業費累計(平成26年度まで)	7,124,234	50 %	平成26年度事務事業評価表では、事業開始時の総事業費予定額「6,752,040千円」と算出していたが、駒形交差点から飯能所沢線までの延長730mの区間について、整備に要する費用を約70億円と見込み、総事業費を更新している。平成27年度は用地測量に基づき計画道路用地の精査を行うとともに、設計準備を実施して関係機関との調整を図る。平成28年度以降に鉄道の立体交差を含む道路予備設計、平面交差設計、交通量調査・推計を行い、事業費及び期間を算定して事業の着手を目指す。	
	平成27年度実施計画における事業費	平成27年度	0		50 %
		平成28年度	149,232		51 %
		平成29年度	500,000		55 %
現時点での総事業費予定額	14,124,234	平成 年度終了予定			

経費	会計種別	平成 25 年度 (千円)	平成 26 年度 (千円)	平成 27 年度 (千円)
	一般会計			
	当初予算	10,000	7,370	0
	決算(見込み含む)	9,870	7,128	
	(非常勤特別職員) (臨時任用職員)	(0.00 人)	(0.00 人)	(0.00 人)
	正規職員人件費	1.15 人	10,221	0.85 人
	事業費合計	20,091	14,541	
財源内訳	一般財源	12,091	9,541	0
	国・県支出金	0	0	0
	その他()	8,000	5,000	0

※「財源内訳」について平成27年度のみ、当初予算の内訳となっています。

成果	項目名	項目説明	単位	H 25	H 26	H27目標値	将来目標
				目標値	10,000	7,370	0
	実績			20,091	14,541	<input type="checkbox"/> 実績 拡大図る	<input checked="" type="checkbox"/> 実績 縮小図る
	目標達成状況	どれだけ目標に近づいているかを達成率として示しています		%	達成率	50	51
	成果指標設定理由・目標値の考え方	敷設済電線共同溝への通線工事、各戸への供給、抜柱、その後、歩道の透水性舗装施工により整備完了となる。H24年度からH26年度までに延長650mの区間を無電柱化及び電線類の地中化を実施し、整備完了により100%(事業費割)とした。					

⑥評価	事業計画見直しの必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要あり⇒ <input type="checkbox"/> 見直しの必要なし⇒	理由及び今後の方向性
	総事業費見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要あり⇒(<input checked="" type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了) <input type="checkbox"/> 見直しの必要なし	所沢駅西口駅前広場から県道東京所沢線駒形交差点までの延長700mが開通しており、電線共同溝により無電柱化及び電線類の地中化を行い、H26の歩道整備で上記区間は完成となった。県では所沢村山線の計画道路用地の取得を開始したことから、今後、設計を行い事業費・期間を算出する。
	上記評価の理由	本路線は昭和28年都市計画決定され、総延長1,430mのうち延長700mの区間が供用している。残りの延長730mについては、埼玉県と所沢市により、区間を定めて整備を行うもので、本路線と接続する飯能所沢線第2工区の一部区間について、H27暫定供用が計画されていることから、整備効果を高めるため事業化を計画している。開始時期や事業期間により事業費が変更となることから総事業費の見直しを行うものである。	
	評価日	H27.6.11	評価者職氏名 建設部計画道路整備課 課長 岸徳夫

⑦環境影響	有益な環境影響	1-1地球温暖化の防止	4-1大気汚染の防止	有害な環境影響を及ぼす原因活動	緑の減少・都市計画道路の整備	規制を受ける環境法令等	有
						緊急事態	有